

生き方を変える

浅野幸治（准教授）

- 福井達雨、『アホかて生きているんや』、教文館、1972年
——、『ゆっくり歩こうなあ』、海竜社、1995年
——、『あなたは何処に行くのですか』、海竜社、1997年
——、『一人は力です』、海竜社、1999年
——、『僕アホやない、人間だ（2）』、海竜社、2001年

福井達雨は数多くの著作を著しているが、上に挙げたのは、その中で比較的手に入りやすくかつ読みやすいものである。比較的手に入りやすいとは言っても、『ゆっくり歩こうなあ』以下の4冊は古書でしか入手できない。

さて、諸君の多くは、人生に目的や目標があるのがよいことだと考えているのではないだろうか。しかし、それは本当だろうか。目的・目標がある人は、その目的・目標を達成したら、どうするのだろうか。また次の目的や目標をこしらえて、その目的・目標に向かって邁進するのだろうか。では、その目的・目標を達成したら、どうするのだろうか。さらに次の目的や目標を見いだして、頑張るのだろうか。そのような繰り返しは、いつまで続くのだろうか。死ぬまでだろうか。

たしかに、目的や目標に向かって努力することには、美しい点がある。なぜなら、現在の自分を犠牲にしているからである。しかし、一生、目的や目標に向かって努力して現在の自分を犠牲にしていたら、自分の人生はどこにあるのだろうか。

また、目的や目標を達成することに人生の価値があるのならば、目的や目標を達成できない人の人生には価値がないということになるだろう。しかし、はたしてそうだろうか。知的障害をもった人やお年寄りの中には、なんの目的や目標も達成できないような人もいるだろう。そのような人の人生には、価値がないのだろうか。赤ちゃんが1歳で亡くなったとしたら、その赤ちゃんの人生には価値がなかったのだろうか。そんなことはないだろう。私たちはこの世に生を受けて存在している。それはそれだけで素晴らしいことだ。私たちは、なにかを見たり、聞いたり、感じたりする。それはそれだけで奇跡的に素晴らしいことであり、喜ぶべきことである。

福井達雨は、1962年に止揚学園を設立して以来、知的障害をもった子ども・人と

共に生活し、障害者差別と闘ってきた人である。『ゆっくり歩こうなあ』以下の4冊は、そんな福井が比較的最近に書いた日々の思いを集めたものである。そこには、知的障害をもった人たちから福井が学んできた人生の知恵が綴られている。他方、『アホかて生きているんや』は、福井の初期の著作で、彼の運動・思想の原点をかいま見させてくれる。いずれか1冊を手にとって、読んでみてはどうだろうか。

※上記図書の利用については、図書館カウンターまでお尋ねください。

(付記 この小文は、『豊田工業大学総合情報センターニュース』第6号(2009年10月)、1頁で発表したものである。)